

「オンデマンド授業」

京角 紀子

オンデマンド授業とは、インターネットに接続されたPCを通して、いつでもどこからでも、何度でも受講可能なeラーニングのことである。近年、独自に導入する大学が増えるなかで、複数大学の授業を相互にネット上で提供しようと2005年度早稲田大学が中心になり「オンデマンド授業流通フォーラム（以下「フォーラム」）」が設立された。本学でも新しい教育スタイルの試みとして、フォーラムに参加し、提供科目の受信・配信を行った。受信科目は全カリ総合科目に設置した長谷川眞理子早稲田大学教授の「進化生物学」である。配信科目は大野久学校・社会教育講座教授による「青年期の自我と恋愛」で早稲田大学に配信した。この場を借りて、オンデマンド授業の受講生に実施したアンケート結果と、そこから見てくる課題とともに今後のオンデマンド授業の展開について考えてみたい。

I 本学のオンデマンド授業

1. オンデマンド授業の構成

オンデマンド授業は、事前にスタジ

オや教室などで収録した授業コンテンツをインターネットで履修する講義部分と、科目担当者への質疑応答や受講生同士の意見交換を行うBBS（電子掲示板）部分で構成されている。1回の授業は約50分で、1週間配信され、半期分15回の授業が開講される。成績評価は、受講状況、BBSへの参加度、また小テストやレポートの提出などによる。受講生からの質疑応答に対応するため、授業には「教育コーチ」がつき、科目担当の授業運営をサポートする。科目担当者と同じ専門分野を研究している博士課程後期課程の院生が担当するケースが多い。

2. 受講状況・アンケート結果から

大学院間の単位互換やf-Campusなどと異なり、フォーラム登録科目を受講するには受講料が必要となる。大学間の協定や諸般の事情から受講料は一定ではないが、どの大学もいまのところ受講生への費用負担は求めている。大学が負担するコスト面、実験授業と位置付けていることから2005年度の受信科目「進化生物学」、配信科目「青

年期の自我と恋愛」はともに履修者30名に限定された。

「青年期の自我と恋愛」は2001年度に全カリの総合科目で同様の科目内容が開講され、授業の最終回までタッカーホールを満員にした人気科目であった。制作に当たっては大野教授の講義ノートの完成からパワーポイントの作成、収録、コンテンツ制作に約数ヶ月を要した。心理学系の科目の少ない早稲田大学の学生には、この授業は魅力的だったのであろう。711名の履修希望者が殺到した。「進化生物学」の本学学生の履修希望は81名であった。

成績評価は、「青年期の自我と恋愛」が8割弱の単位取得率であるのに対し、受信科目「進化生物学」は6割であった。他大学のオンデマンド授業の平均単位取得率は7割である。本学の修得率は低い。

* * *

最後まで受講した者を対象に授業終了後にシステム上でアンケートを実施した。メリット・デメリットとも両科目で同様の傾向があり、オンデマンド授業の課題がみえ興味深い。

受講後に関する質問項目で、「授業内容に興味はもてたか」という問いに9割の学生が肯定。「いつでも、どこからでも受講できよかった」8割、「講義を繰り返し何度でも受講できよかった」8割と、オンデマンド授業の特徴を好意的に捉えている。特に「繰り返し」受講が可能な点は、実際受講

してその良さに気づいているようで、自由記述欄には「授業では1回聞いたら終わりだが、過去の講義を聞くことができ、分からないところや興味深いところは何度も受講できよかった」という感想が複数あった。

8割の受講生が「教室での授業と比べて、分かりやすい」と回答。講義の制作に時間をかけ整理されているため、その分受講生には分かりやすいのだろう。「小テストやレポートがオンラインで提出できる」は6～7割が評価している。

一方で、アンケート結果からオンデマンド授業が抱える問題点や課題がうかがえる。

一つ目は、受講生間のコミュニケーション不足である。「教場授業と比べて、授業の内容に関し学生同士で意見交換する機会があるか」という問いに、「進化生物学」3割強、「青年期の自我と恋愛」は半数の学生が否定。本学において「進化生物学」の受講者から「このままではお互いの顔が見えないまま講義が終わってしまう」と、自主的にコミュニケーションの場を設定する企画が持ち上がった。インターネットというバーチャルな授業空間だけではなく、同じ学内の受講生ならばやはり顔を見て安心したいのだろうか。

二つ目は、学生のモチベーション維持の課題である。自分で時間割を作成し指定教室で授業を受ける正課授業に比べ、いつでもどこからでも受講可能

なオンデマンド授業は利便性がある一方で、受講生の主体性・自己管理が求められる。気づくと受講期間終了間際ということがあるようだ。

「進化生物学」では1回の授業は、月～日曜日の1週間を受講期間として設定していたが、日曜日の夜になってもまだ数名しか受講していないことが数回あった。授業回数後半になると受講するのが精一杯で、オンデマンド授業の特徴であるBBSへの書込みまでなかなか手が回らない状況が見られる。「青年期の自我と恋愛」についても1回の受講期間の1・2日前に受講が集中しており、同様の傾向が見られた。参考まで、受講場所は、自宅が9割弱、受講時間は、夜間・深夜は5割であった。

これらの課題を改善するには、学内でコミュニケーションの場を設定したり、履修生に定期的にメッセージを送信し受講を促したりなど、大学側や科目担当者・教育コーチからの仕掛けが必要だろう。オンデマンド授業は教員からの一方通行の講義とは異なり、学生と科目担当者・教育コーチ、また学生間のBBS上での意見交換があってはじめてその良さが発揮できる。人の意見に相槌を打っているだけではなく、きちんと自分の意見をまとめBBS上で発言する。その後担当者や他の受講生から反応がある、こういう経験は少人数教育・個別教育に等しい。次年度以降の講義ではこの点を改善しコミュ

ニケーションの改善を図っていきたい。

* * *

全カリ「立教科目」が、2005年度特色GPに採択され、補助金が交付されることになった。補助金の使途として浮上したのは、「立教科目」をオンデマンド授業コンテンツとして制作し受信・配信することであった。これにより高額なコンテンツ制作に道が開かれた。科目は五十嵐暁郎法学部教授・佐々木寛兼任講師による「平和と安全保障」である。内容的にもコンテンツ制作物としても他大学に負けない立教大学らしい科目を提供できる予定だ。折角のコンテンツである。学生間のコミュニケーションの場を設け講義を配信していきたい。

II オンデマンド授業の動向と可能性

1. 国内外のeラーニング事情

新聞やテレビでは毎日のように教育現場でのネット利用について報じている。また、国公私立を問わず様々な大学でeラーニングによる「授業形態の多様化」が始まっている。早稲田大学では大学設置基準が改正された2001年度よりオンデマンド授業を積極的に推進、2003年度には人間科学部通信教育課程を設置しスクーリングなどの一部を除いて全ての科目においてオンデマンド授業で単位を修得することを可能とした。2005年度では授業の一部またはフルでオンデマンドを利用している科目は387科目で2万6千人余りが受

講しているようだ。

また、信州大学のインターネット大学院、長岡技術科学大学を主幹事とする大学・高専のeラーニング高等教育連携、埼玉県西部の私大による単位互換のeラーニングなど、中規模大学でもネットを利用した高等教育の改革を積極的に進めている。

海外に目を向けると、eラーニングが普及している米国では大学の4割程度がインターネットを利用し授業配信を行い、講義科目のパッケージ化が進展、他校のオンラインコースを購入し提供する大学もあるという。中国や韓国でも国策としてeラーニングに取り組み、推進している。

国内国外を問わずネット社会は教育の授業形態を確実に変化させ、授業は教室で行うものという既存観念を確実に変えつつある。

2. 課題克服には・・・

しかしながら、オンデマンド授業を日本の大学に普及させるには様々な課題がある。制作コストや運営コストの負担、具体的な教材開発スキル、制作に携わる教員・スタッフの負担、授業コンテンツや使用教材の著作権問題等。これらを各校独自の努力だけで解決するには限界がある。複数の大学が手を結び、産学協同体制で取り組み、これらの課題を克服して、初めてオンデマンド授業に普及の道が拓かれる。

2005年度早稲田大学が中心に40以上

の大学が、お互いの授業をオンデマンドで配信・受信するフォーラムが立ち上がった。早稲田大学はその規模や社会的影響から自大学のみでもオンデマンド授業の開発・発展は可能である。しかし早稲田大学が他大学に声を掛け、オンデマンド授業やフォーラムに力を入れている背景には、現在の社会的に閉鎖された教育機関の現状を“情報化”を利用して変えていこうという積極的な教育改革の方針がある。国の政策であるeラーニングとも相まって大学内にまた社会に向けてオンデマンド授業を広げ、その過程で自らの大学改革を推進して行こうとしている。

本学において早稲田大学の改革に巻き込まれる必然性はないが、オンデマンド授業が秘めている今後の教育改革の方策を利用しない手はないののではないか。大学は個々の努力だけで解決する時代は終わった。今は大学間で協同しお互いに情報交換しオープンにし合う、その中で個々大学の特徴・個性を再確認し伸ばしていく。そういう時代になった。オンデマンド授業を介しそんな感想をもった。

きょうかく のりこ
(本学職員 教務事務センター担当課長)